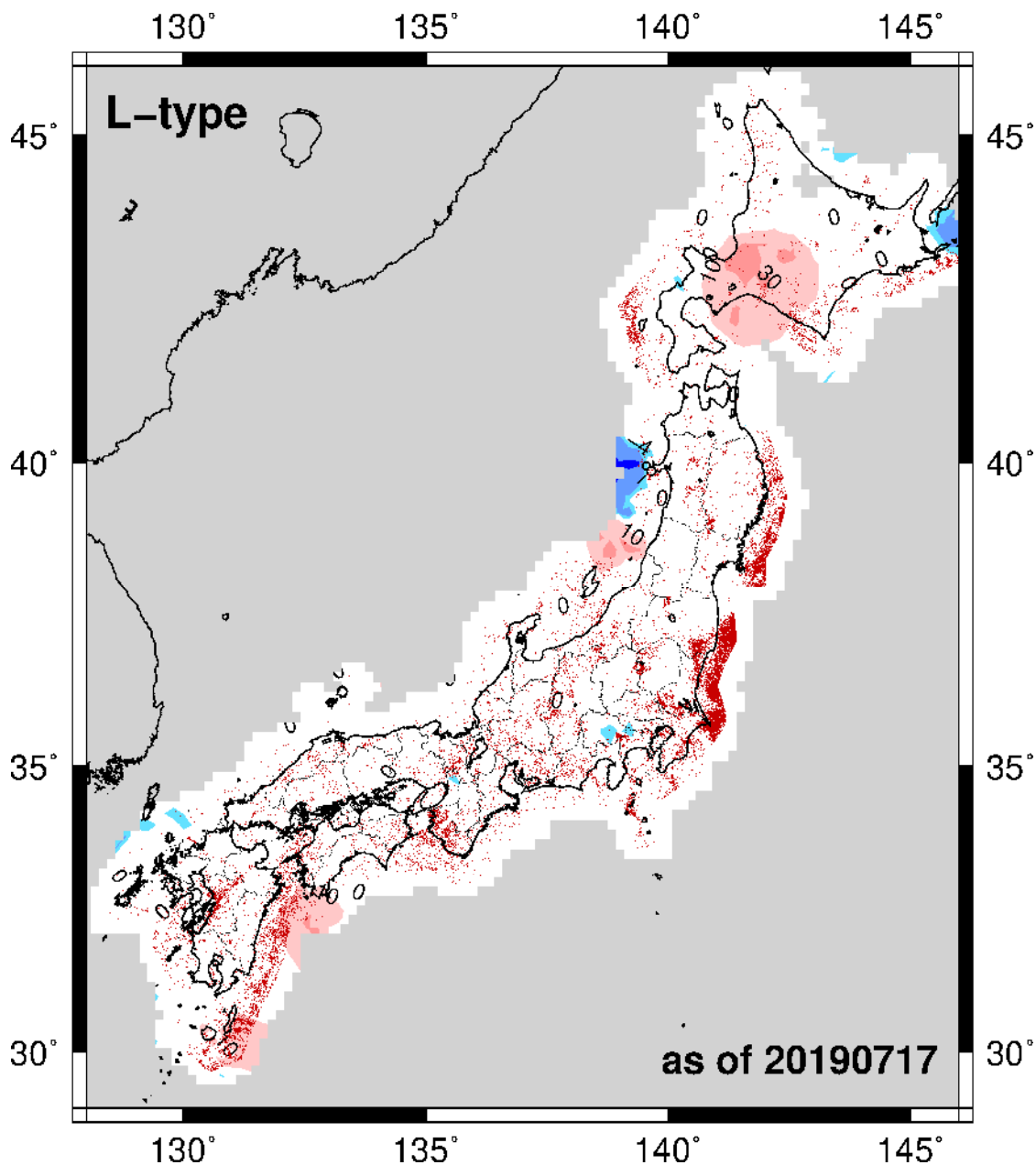




日本列島陸域の地下天気図®

6月10日のニュースレターに続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。6月6日の段階では、Mタイプで再び九州北方海域に小さな異常が出現しだした事が確認されました。今週は7月17日時点のLタイプ地下天気図をお示します。

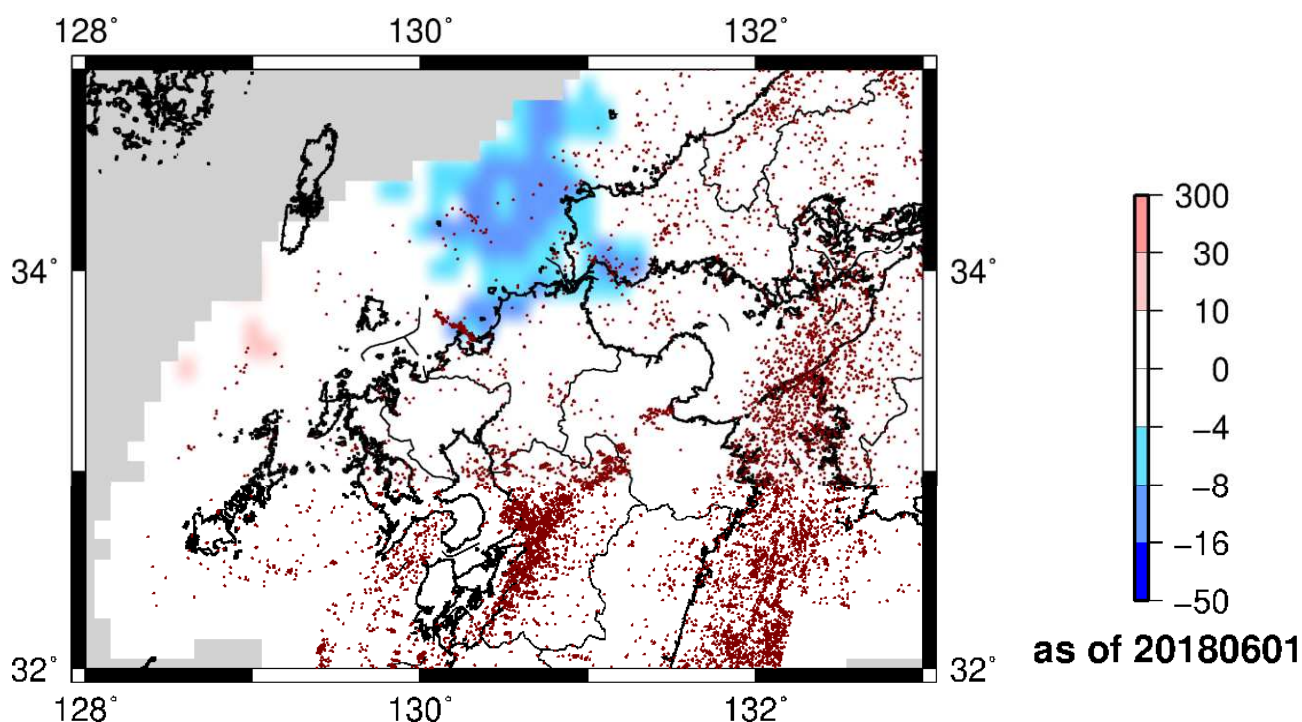


今回の解析で、Lタイプでも小さな地震活動静穏化が九州北方に再出現しています。また山形・新潟沖の赤い領域(地震活動活性化)は、6月18日に発生した山形県沖の地震(M=6.7)による影響が出ています。北海道に広がる赤い領域は、昨年9月6日に発生した胆振東部地震の影響がまだ残っている事を意味しています。

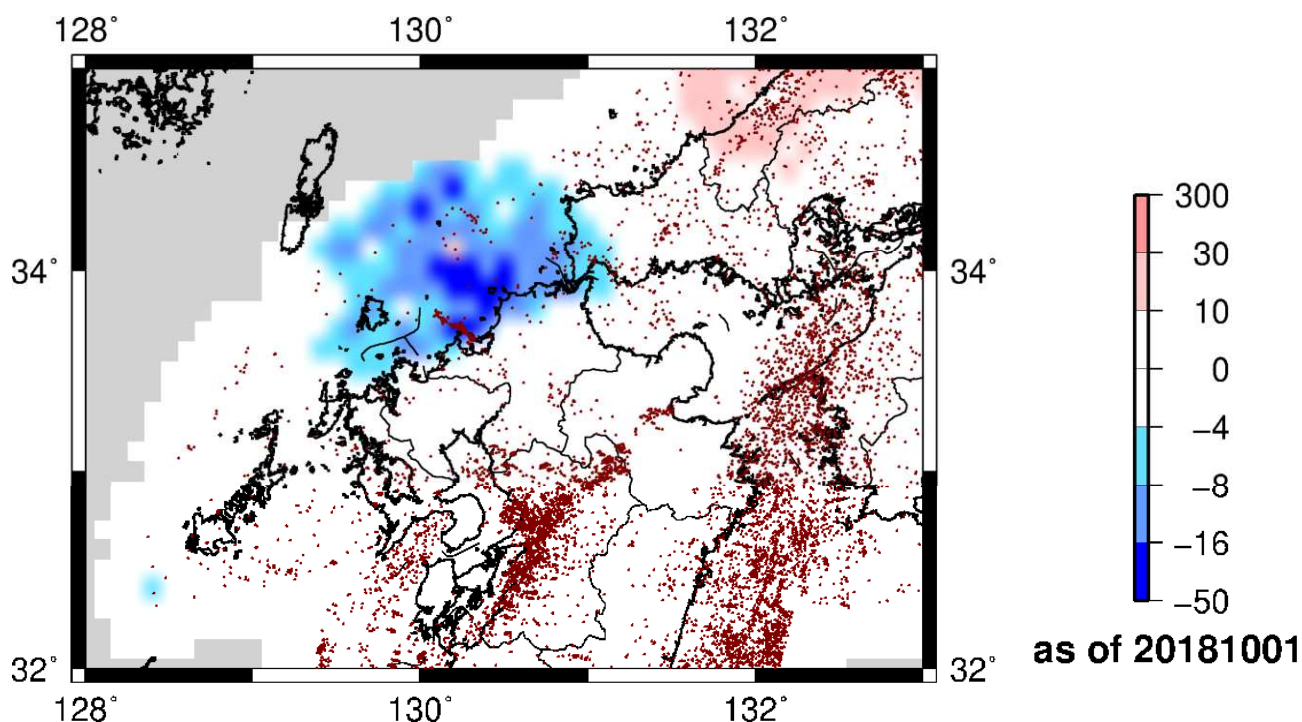


九州北方海域を中心に出現していた地震活動静穏化の異常

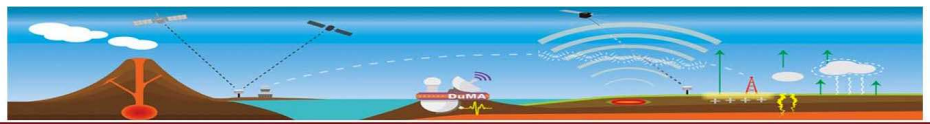
先週号でお知らせしましたとおり、九州北方海域の地震活動について少し詳しく解析を行ってみました。異常は2018年5月ごろから出現しだし、6月にはかなり大きく広がるようになりました(下図)。



その後、10月から12月にかけて静穏化が最も進行しました。次の図は静穏化が最も進行した2018年10月の地下天気図です。



なお地下天気図の中の茶色の小さな点が解析に使用した地震の位置を示しています。



次の URL に2018年1月から2019年7月までの九州北部における地下天気図(L タイプ)のアニメーションです。1ヶ月ごとに表示しており、繰り返すようになっています。

<http://www.sems-tokaiuniv.jp/aaa/N-Kyushu.gif>

地震活動静穏化の異常は消長を繰り返して現在はほとんど消失している事がわかります。2019年5月6日のニュースレターで、今後九州北部を中心とした地域で地震発生可能性の高い地域というものをお示しましたが、5月6日の予測は、地下天気図からの情報および陸域での地震活動を勘案して、かなり狭い地域に予測を限定しております。実際の異常は、長崎県・壱岐を含めたもっと大きな地域に広がっている事にもご留意願います。

また、過去の地下天気図解析から、地震はその異常の中心部ではなく、周辺部で発生する事が多いという事が経験的に知られています。

前ページの図で青い領域が広がっている部分およびその少し外側の領域に DuMA は注目しております。